
1 年研究授業計画

東二番丁小学校 1 学年担任 井上 竜一

1 研究教科 算数科

2 共同研究における目指す子供像

- (1) 課題に対応した、自分なりの思いや考えを持つ。
- (2) 相手を意識し、順序よく自分なりの思いや考えを表現する。
- (3) 課題に沿って伝え合い、友達のよいところを見つける。

3 算数科で目指す児童像

算数的活動の楽しさに気付き、進んで自分の考えを伝え合ったり友達と話し合ったりして、意欲的に問題解決に取り組むことができる。

4 児童の実態

入学して1ヶ月ほどだったが、落ち着いて話を聞こうとする姿勢が見られる児童が多い。しかし授業に集中することが難しい児童もあり、個別の支援が必要であると考え。数を順番に唱えることはできるが、数を数えることが不確定な児童も数名見られる。具体物と対応させたり、半具体物に置き換えて数えたりする算数的活動を交えながら、数と量の関係に気付かせる指導を進めていく必要がある。数字を正しく書くことが苦手な児童もあり、鉛筆で書く技能はまだ個人差が大きい。思ったことを言葉で表現しようとする意欲は高く、今後の言語活動に関する学習には意欲的に取り組むことができるのではないかと考える。

5 『小学校学習指導要領』における言語活動の位置づけ

本研究は『小学校指導要領』算数科の第1学年指導計画作成と内容の取り扱い2(2)「思考力、判断力、表現力等を育成するため、各学年の内容の指導に当たっては、言葉、数、式、図、表、グラフを用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりするなどの学習活動を積極的に取り入れるようにすること。」に基づいて行う。

6 授業研究計画

- (1) 進んで課題に取り組み、自分の考えを発表し合う授業。
- (2) 自分の考えを分かりやすく伝えるために、表現の工夫をすることができる授業。

7 授業技術課題

- ・ 分かりやすい端的な指示や発問を行い、学習に見通しを持つことができるようにさせる。
- ・ 座席表を活用し、授業のねらいにせまるための確かな見取りを行う。

◎ 教科の目標と研究内容との関連

(1) 指導要領より

①教科の目標

算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。

②1 学年の内容

- 具体物を用いた活動などを通して、数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方について理解できるようにするとともに、加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。
- 具体物を用いた活動などを通して、量とその測定についての理解の基礎となる経験を重ね、量の大きさについての感覚を豊かにする。
- 具体物を用いた活動などを通して、図形についての理解の基礎となる経験を重ね、図形についての感覚を豊かにする。
- 具体物を用いた活動などを通して、数量やその関係を言葉、数、式、図などに表したり読み取ったりすることができるようにする。

今年度は、その中でも加法及び減法の意味について理解すること、数量やその関係を言葉、数、式、図などに表したり読み取ったりすることを中心にして授業を考えていきたい。

(2) 今年度指導するポイント

- ①ものとものを対応させることによって、ものの個数を比べるなどの活動から始まり、やがて、その個数を正しく数えたり、数えたものの個数を数字で表したりすることができるようにさせる。
- ②1 位数と 1 位数の加法の計算とその逆の減法の計算について、計算の意味を理解し、その計算の仕方を考えて説明ができるようにし、計算が確実にできるようにするとともに生活や学習の中で活用できるようにさせる。
- ③加法及び減法が用いられる具体的な場面を＋や－の記号を用いた式に表したり、それらの式を具体的な場面に即して読み取ったり、式を読み取って図や具体物を用いて表したりすることができるようにさせる。